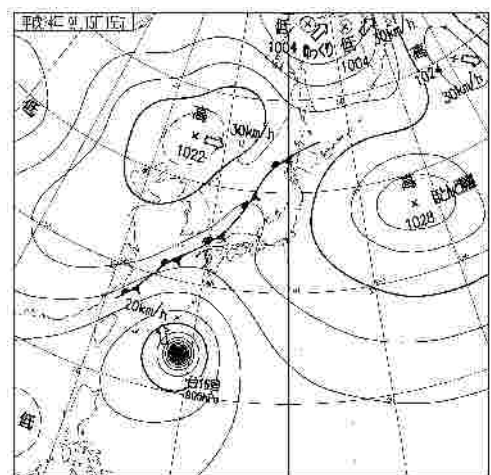
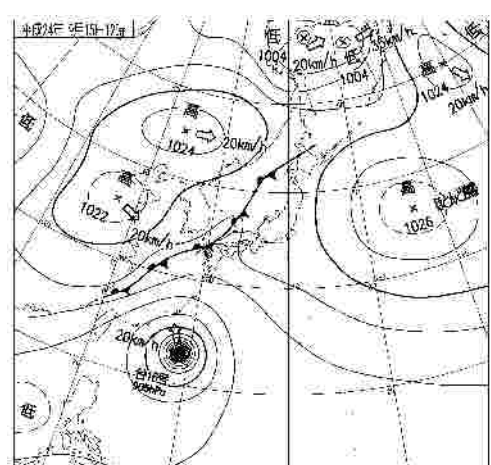


山名[山域]	大日三山[北アルプス]	目的[方法]	立山連峰の展望
期間	2012年9月15日(土)-16日(日)	形態	縦走(小屋泊)
参加人数	1人		

9/15(土) 晴れ一時雨 集合地(300)=豊田東IC(320)=立山IC(610)=あるぺん村(625,635)=立山駅(655,740)+美  
 女平(750,805)=室堂(845,920)-雷鳥沢野営場(1010,1020)-新室堂乗越(1047)? 昼食-奥大日岳(1235,1240)--七福園  
 ? 中大日岳(1408)-大日小屋(1417) 9/16(日)晴れ 大日小屋(500)--大日岳(524,550)--大日小屋(615,635)--  
 大日平山荘(835,850)--牛ノ首--大日岳登山道入口(1050)--称名滝(1100,1110)--称名滝バス停(1130,1140)+++  
 立山駅(1155,1205)--グランドサンピア立山(1215,2000)=立山IC(20:40)=荏川IC(22:30)=事故のため一般道==高鷲  
 IC==豊田南IC(2405)=自宅(2415)



上 9/15 12時、下 15時

日誌:

9/15 (土) 身支度前に新人Kさんが室堂までの切符を先に購入してくれたお蔭で少し待つ程度で立山駅を出発。バスの車窓から大日三山のホリウムやピーク観察しながら定刻着。小屋に予約後二人と別れ、みくが池経由で雷鳥沢野営場まで降ると三連休を楽しむ家族連れの子が目立つ。30分ほどで稜線に出ると咲き終わったツツジの穂が沢山残り、峻烈な剣岳、遠く立山三山、見下ろす室堂を青空と共にツツジに刻んだ。20分後? P2511 手前でホリホリ。振り返ると展望は消え奥大日の展望はあつたので2700m辺りまで厚い雲? 降ったし止んだので山頂にはかなり客数人。本降り前に小屋を目指す梯子もある明瞭な降り道で大岩のある庭園風七福園を通過中本降りとなって小屋に着いた。夕刻に雨は上がり、キャンプ場の小屋は混んでいたがツツジの灯りが優しくあつた。20時就寝。

9/16 (日) 星輝き4時起床。小屋の前で毛勝三山、剣、立山三山、奥大日岳の黎明の光、眼下には富山湾の灯火。昨日見られなかった山色を満悦。大日岳からの御来光も感動的だが日本海上空の雲が朝光に染まりゆく美しさは忘れがたい。小屋に戻って下山開始。急であるが嫌しさはさほど。熟したバネのチコを摘みながら南東の龍王から薬師岳までの稜線を見渡すこともできた。緩やかな木道を暫く歩くと大日平山荘にはパンがあつてありがたし。濡れている木道の降り気をつけながら秋一番を探すがこれからのよう。登りの登山者は意外に多く、牛ノ首は鬱蒼とした樹林で梯子、鎖ありの激降が始まる。岩苔での転倒と落石にも注意し、最初のパンを見送れば、また狭い登山道に休みたいと思ふ場所はなかつた。幾つものパンを見かけると車道は近く、称名滝の水しぶきを浴びてバスに乗車する。途中の広い立山臨時Pは最奥まで満車で駅まで歩けば20分あるようだ。立山駅で下車後、グランドサンピア立山の無料送迎バスはありがたく温泉後の14時には剣渋滞で1時間遅れの連絡が入る。予定時刻に無事合流し3人揃って富山の海鮮丼に山話弾んで帰路に着く。

感想:台風を巻く曇った空気の流入か? 初日の天候急変だけで2日目はそれぞれの計画どおり実行でき良かった。